

## 整形外科

### 1 臨床研修の理念

- A 整形外科医師としての医学・医療への社会的ニーズに対する認識を深める。
- B 患者と良好な関係を得られるよう、摂理ある社会人の養成課程に主眼を置く。

### 2 対象

初期臨床研修を終えた医師を対象とする。

### 3 研修目的

- A よくみる外傷・疾患の初期対応力の獲得。
  - B 基本的な診療能力（態度、技能、知識）の修得。
- ※整形外科専門医受験資格に必要な知識と技能を取得する期間である。

### 4 プログラムの名称等

- A プログラムの名称：東京労災病院整形外科卒後後期研修プログラム
- B プログラム責任者：東京労災病院 整形外科部長 楠瀬浩一
- C 開始年度：平成 27 年 4 月（臨床研修期間終了者が対象、既研修終了者を含む。）
- D 研修施設：東京労災病院。東京労災病院整形外科での研修を原則とする。  
ただし、小児整形外科、スポーツ整形外科、リハビリテーションなどの研修希望があれば可能な限り応援する。

### 5 基本研修内容

#### A 救急外来における整形外科的基礎訓練

研修開始より 6 か月以内に下記 1)、2) における診断・初期治療修得を目的とする。

#### 1) 外傷に対する初期治療

- a 汚染された創の処置：創の清掃：洗浄、ブラッシング、デブリドマン
- b 骨折時の全身に対する初期治療：出血、脂肪塞栓など
- c 骨折などの外傷に伴う局所の初期対応：神経・血管損傷

d 高齢者に特有な外傷の初期対応：大腿骨近位端骨折、橈骨遠位端骨折、脊柱圧迫骨折など

2) 感染対応

創部感染、化膿性関節炎、腸腰筋膿瘍などに対する早期処置の修得：骨関節の感染は極めて治りにくく、初期の適切な抗菌薬の投与、外科的処置が求められる。

B 整形外科的代表疾患に対する所見の取り方の修得

- 1) 脊椎脊髄疾患（頸椎症性脊髄症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など）や上下肢の拘縮神経障害に対する神経学的検査の修得
- 2) 関節疾患に対する的確な所見獲得訓練
- 3) がんに関連した運動器障害に対する理解の修得
- 4) 感染性疾患に対する処置の修得
- 5) 関節リウマチなど関節疾患の理解

C 研修開始より 12 か月以内に外傷における手術的治療の訓練を行う。

D 研修開始より 3 か月は上位医師とともに患者を受け持ち、入院での診療を中心とした研修を行う。学会・研究会における学術発表と一編以上の論文の作成。

E リハビリテーションの研修（希望者）：研修 2 年目に 3 か月予定でリハビリテーションの基礎を学ぶ。

※当院リハビリテーション科は充実したスタッフを持っており、研修は当院で行う。